

[others]

「石山 忍前会長のご逝去を悼んで」

学友会前副会長 厚東 正之

京都では祇園祭の準備も始まった去る7月5日の朝、山田先生より石山さんが亡くなりましたというお電話を頂きました。(7月4日午後、前立腺腫瘍にてご逝去)その瞬間、息が止まりそうで鼓動の早なりを覚えるとともに愕然としました。そのすぐあとに大学の遠山さんからも計報の連絡を頂きました。

石山さんは昨年末から前立腺腫瘍のため入院加療中であり、学友会役員をはじめ友人、大学関係者も随分と心配をしていましたが、まさかこんなに早く悲報に接するとは思っても及ばませんでした。まさに痛恨の極みであります。ちょうど3年前(平成16年)の春頃だったと思いますが、前立腺腫瘍が見つかり学友会関係者をはじめとして、私達周囲の友人も大変心配を致しました。しかし、この計報をお聞きして人生の儚さとこの在の無常をつくづくと感じる次第です。

ここで石山さんの足跡を少したどってみますと、昭和36年に「レントゲン技術専修学校」を卒業され(株)島津製作所に勤務(4年余)されたのち、昭和40年に京都市職員となられ病院や保健所に平成13年に退職されるまで36年間勤められました。その間の平成6年からは京都市立病院放射線科技師長にご就任され7年間努めておられます。京都市職員としてのこの36年間は、京都市民のための保健衛生に大きく貢献されました。

他方、京都府放射線技師会や日本放射線技術学会でも長年ご活躍され、両会の発展のために大いに尽力されました。

母校の学友会関係では京都支部長を3年間、学友会理事の6年間を経られてから平成13年6月の長野での総会で会長に就任され、本年5月の京都総会まで6年間の会長職の大任を果たされました。在任中の特筆すべきことは、なんといいましても母校が4年制大学に昇格するための募金活動に、先頭をきって格別のご努力を注がれたことでしょう。このような学友会の強力な側面的援助もあって、本年4月に4年制大学として「京都医療科学大学」が開学致しました。4年制大学への昇格は歴代会長をはじめ同窓生一同の積年の願いでした。

体調を崩されてからも大きな楽しみにされていた新校舎竣工式(昨年12月)、開学式(本年4月)、学友会総会(本年5月)に出席できず、ご本人にとってもまさに痛恨の思いでおられたことでしょう。病床にてどんな感慨に耽っておられたのでしょうか。

このように学友会活動をはじめとして、これまで携わってこられた他の全ての会運営についても積極的に活躍され、それぞれに大きな功績を残してこられました。本当に惜しい人を亡くし大変残念です。

石山さんとは30数年の交友関係になりますが、万人が認める議論好きであり、お酒やカラオケ等もこよなく愛されました。飲むほどに議論に熱中し、思わず聞きほれてしまうこともありました。死は誰の上にも、必ず訪れる避けられようのない定めではありますが、67歳(享年)にしては余りにも早い他界でした。

学友会をこよなく愛した石山さん。これからは天上からいつまでも「学友会と母校の大学」の発展していく姿を暖かくお見守り下さい。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

以上

\* 通巻185号 2007年10月1日発行(H19-No.3)より